

令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	216	57	55	4.9	6.8
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	497
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	247	70.4	60.4	61.0	51.7	67.9	4.2	3.9	8.7	6.9	3.4
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2 年	学校	268	69.6	54.0	67.1	50.9	62.7	6.0	3.8	6.6	3.0	4.7
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1 年	学校	304	72.8	67.1	66.7	70.1	79.7	5.3	1.8	4.7	2.0	1.7
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査（GTEC）

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	204	146.7	138.2	180.0	121.2
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	225										
2 年 男 子	学校	25.45	27.23	40.12	55.35	69.09		8.24	194.28	17.88	39.06
	大阪市	28.65	26.88	43.47	51.81	80.13		8.06	195.07	20.28	41.69
	全 国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2 年 女 子	学校	21.73	23.42	44.63	49.25	48.43		9.35	164.61	10.79	45.42
	大阪市	23.13	22.68	46.31	46.59	53.05		9.03	166.78	12.19	48.11
	全 国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査より

〈国語〉

本年度の学力・学習状況調査において国語の平均正答率は57％と、大阪府と比較して＋5ポイント、全国と比較して＋2.7ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に正答率を全国と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.4ポイント、「書くこと」については3.5ポイント、「読むこと」については1.9ポイント上回る結果となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、7.9ポイント上回る結果となった。

さらに評価の観点別では「知識・技能」で7.9ポイント、「思考・判断・表現」で2.4ポイント全国と比較して上回ることができた。

全ての項目で全国平均を上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。問題番号4(二)の、文章を見直し、修正した方がよいと考えた理由を書くという記述式の問題についても、全国平均と比較して11.1ポイント正答率が上回っていた。

〈数学〉

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は55％で、大阪府平均を8ポイント、全国平均を6.7ポイント上回った。本校の領域別の平均正答率は、「数と式」の領域では、51.9％(府平均:＋9.5、全国平均:＋8.4)、「図形」の領域では、52.9％(府平均:＋6.7、全国平均:＋6.4)、「関数」の領域では、57.1％(府平均:＋10.8、全国平均:＋8.9)、「データの活用」の領域では、60.0％(府平均:＋5.1、全国平均:＋8.9)であり、すべての領域で、府平均・全国平均ともに上回った。観点別、問題形式についても、すべてで府平均・全国平均ともに上回ったが昨年度と比べて全体的に下回っている。生徒質問紙では、「文字式を用いた説明や図形の照明を読んで、かかっていることを理解することができますか」の項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が75％で、全国平均を7.4ポイント上回った。本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るものの、図形の領域の正答率が50％を少し上回っている程度であること、記述式の問題の正答率が50％を下回っていることが課題である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)より

〈国語〉

本年度の大阪府チャレンジテストにおいて国語の平均点は70.4％と、大阪府と比較して6.2ポイント上回った。領域別に正答率を大阪府と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.6ポイント、「書くこと」については0.7ポイント、「読むこと」については2.3ポイント上回る結果となった。さらに評価の観点別では「知識・技能」で3.8ポイント、「思考・判断・表現」で4.6ポイント大阪府と比較して上回ることができた。また、無回答率は、大阪府平均と比較すると、2.6％下回っていた。全ての項目で大阪府平均を上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。「本文の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができる」設問では、大阪府平均を11ポイント上回るなど、文と文の関係や文章の構成を考える授業展開を進めた結果が出たと考えられる。また、「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さに注意して話すことができる」設問では、大阪府平均を14ポイント上回るなど、班活動や発表活動を多数取り入れ、自他の意見を聞き比べる機会を設けた結果が出たと考えられる。今後の課題としては、「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解できている」設問では大阪府平均を1ポイント下回ったことであり、創作活動や発表活動のみならず、基本的な語彙力の向上や語句の使用場面を想定した学習活動を取り入れ、知識・技能を身につけさせる必要がある。

〈社会〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均51.2点よりも9.2点高い、60.4点であった。領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均51.6点よりも9.3点高い、60.9点であり、歴史的分野が大阪府の平均50.8点よりも8.9点高い、59.7点であった。

今後の課題としては、歴史的分野の「古代」、「江戸時代」の正答率が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

観点別に見た得点率でも、2観点とも大阪府の平均を上回った。思考・判断・表現の観点については大阪府との差が9.0点高く、授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させた成果が出ている。

問題形式別の得点率でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、記述の形式の得点が大阪府の平均18.1点よりも6.7点高い、24.8点であり、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりしている成果が出ている。大阪府と比べて、無回答率が低いことも、普段から必ず自分の考えを書かせたり、わからないものは調べさせたりしている成果が出ている。

〈数学〉

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は61.0点で7.1点上回った。

「図形」の領域では、得点率が68.1％となり、大阪府平均と比較すると＋5.6％上回り、基本的な図形の性質を理解し、面積、体積を求める技能は身につけていると考える。その他の領域については「数と式」の領域で63.5％(府平均＋6.3)、「関数」の領域で52.0％(府平均＋8.5)、「データの活用」の領域で60.1％(府平均＋8.5)と全領域において上回る結果となったが、「関数」の領域が最も低く、複合問題などでも多く取り扱われる分野でもあるので、入試までしっかりと取り組んでいきたい。

〈理科〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均点46.0よりも5.7点高い、51.7点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では25～49点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では65～74点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。また、25～39点と80～84点も人数分布が多く、ばらつく傾向が見られる。

領域別に見た平均点では、3領域とも大阪府の平均点を上回っており、領域の違いによる平均点に偏りは見られなかった。観点別に見た平均点でも、すべての観点が大阪府の平均点を上回っている。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、選択式や短答式の方が記述式の得点率がやや高かった。問題別で見ても、ほとんどの問題で正答率が大阪府の平均を上回っている。

〈英語〉

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査より

〈国語〉

本年度の学力・学習状況調査において国語の平均正答率は57％と、大阪府と比較して＋5ポイント、全国と比較して＋2.7ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に正答率を全国と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.4ポイント、「書くこと」については3.5ポイント、「読むこと」については1.9ポイント上回る結果となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、7.9ポイント上回る結果となった。

さらに評価の観点別では「知識・技能」で7.9ポイント、「思考・判断・表現」で2.4ポイント全国と比較して上回ることができた。

全ての項目で全国平均を上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。問題番号4(二)の、文章を見直し、修正した方がよいと考えた理由を書くという記述式の問題についても、全国平均と比較して11.1ポイント正答率が上回っていた。

〈数学〉

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は55％で、大阪府平均を8ポイント、全国平均を6.7ポイント上回った。本校の領域別の平均正答率は、「数と式」の領域では、51.9％(府平均:＋9.5、全国平均:＋8.4)、「図形」の領域では、52.9％(府平均:＋6.7、全国平均:＋6.4)、「関数」の領域では、57.1％(府平均:＋10.8、全国平均:＋8.9)、「データの活用」の領域では、60.0％(府平均:＋5.1、全国平均:＋8.9)であり、すべての領域で、府平均・全国平均ともに上回った。観点別、問題形式についても、すべてで府平均・全国平均ともに上回ったが昨年度と比べて全体的に下回っている。生徒質問紙では、「文字式を用いた説明や図形の照明を読んで、かかっていることを理解することができますか」の項目において、肯定的な回答をした生徒の割合が75％で、全国平均を7.4ポイント上回った。本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るものの、図形の領域の正答率が50％を少し上回っている程度であること、記述式の問題の正答率が50％を下回っていることが課題である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)より

〈国語〉

本年度の大阪府チャレンジテストにおいて国語の平均点は70.4％と、大阪府と比較して6.2ポイント上回った。領域別に正答率を大阪府と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.6ポイント、「書くこと」については0.7ポイント、「読むこと」については2.3ポイント上回る結果となった。さらに評価の観点別では「知識・技能」で3.8ポイント、「思考・判断・表現」で4.6ポイント大阪府と比較して上回ることができた。また、無回答率は、大阪府平均と比較すると、2.6％下回っていた。全ての項目で大阪府平均を上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。「本文の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができる」設問では、大阪府平均を11ポイント上回るなど、文と文の関係や文章の構成を考える授業展開を進めた結果が出たと考えられる。また、「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さに注意して話すことができる」設問では、大阪府平均を14ポイント上回るなど、班活動や発表活動を多数取り入れ、自他の意見を聞き比べる機会を設けた結果が出たと考えられる。今後の課題としては、「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解できている」設問では大阪府平均を1ポイント下回ったことであり、創作活動や発表活動のみならず、基本的な語彙力の向上や語句の使用場面を想定した学習活動を取り入れ、知識・技能を身につけさせる必要がある。

〈社会〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均51.2点よりも9.2点高い、60.4点であった。領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均51.6点よりも9.3点高い、60.9点であり、歴史的分野が大阪府の平均50.8点よりも8.9点高い、59.7点であった。

今後の課題としては、歴史的分野の「古代」、「江戸時代」の正答率が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

観点別に見た得点率でも、2観点とも大阪府の平均を上回った。思考・判断・表現の観点については大阪府との差が9.0点高く、授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させた成果が出ている。

問題形式別の得点率でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、記述の形式の得点が大阪府の平均18.1点よりも6.7点高い、24.8点であり、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりしている成果が出ている。大阪府と比べて、無回答率が低いことも、普段から必ず自分の考えを書かせたり、わからないものは調べさせたりしている成果が出ている。

〈数学〉

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は61.0点で7.1点上回った。

「図形」の領域では、得点率が68.1％となり、大阪府平均と比較すると＋5.6％上回り、基本的な図形の性質を理解し、面積、体積を求める技能は身につけていると考える。その他の領域については「数と式」の領域で63.5％(府平均＋6.3)、「関数」の領域で52.0％(府平均＋8.5)、「データの活用」の領域で60.1％(府平均＋8.5)と全領域において上回る結果となったが、「関数」の領域が最も低く、複合問題などでも多く取り扱われる分野でもあるので、入試までしっかりと取り組んでいきたい。

〈理科〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均点46.0よりも5.7点高い、51.7点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では25～49点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では65～74点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。また、25～39点と80～84点も人数分布が多く、ばらつく傾向が見られる。

領域別に見た平均点では、3領域とも大阪府の平均点を上回っており、領域の違いによる平均点に偏りは見られなかった。観点別に見た平均点でも、すべての観点が大阪府の平均点を上回っている。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、選択式や短答式の方が記述式の得点率がやや高かった。問題別で見ても、ほとんどの問題で正答率が大阪府の平均を上回っている。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

〔英語〕

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が53.2点であったのに対し、本校は67.9点であり、大阪府平均より14.7ポイント上回る結果となった。
学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、3.2ポイント上回ることであった。C-NETとの授業やリスニングテストの実施だけでなく、授業内で教員がクラスルームイングリッシュを使用することや、教科書本文のディクテーションを実施することで、高い「聞く力」が定着していると考えられる。
「読むこと」の領域においては、4.9ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を読み込むことを授業に取り入れ、LC（リテラチャーサークル）の手法を取り入れるなどすることで、深い読解の力がついてきているという結果となった。
「書くこと」の領域においては、6.6ポイント上回った。単元ごとの確認テストをはじめ定期テストでも英作文に取り組み、C-NETを含む複数教員で添削することで基本的な「書く力」が定着しつつあると考えられる。
また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において7.8ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において6.9ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査より

〔国語〕

今後の課題としては、「読むこと」の観点があげられる。問題番号3(二)の登場人物の設定の仕方を捉えるという短答式の問題のみ全国平均を1.5ポイント下回った。自分の考えを文章にするといった活動は得意な生徒が多い反面、文章を正確に読み解く力に課題があると考えられる。複雑な文章を読むことに抵抗がある生徒や外国籍の生徒もいるため、基本的な文章の要旨を押さえることが必要である。

〔数学〕

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを説明する力をつけていくことは非常に大切なことである。生徒質問紙の、「数学の授業の内容はよくわかりますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と回答した生徒の割合が83.3%で、全国平均を13ポイント上回った。さらに全国平均を上回るよう、授業改善をしていく。また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていきたい。生徒質問紙の、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用しようとしていますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と回答した生徒の割合が61.6%で、全国平均を3.7ポイント上回った。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れ、今後も習熟度別少人数授業を通して、授業内容の定着をより一層図りたい。今後は、より一層生徒が数学を理解しようとする学習意欲の向上や姿勢を維持しつつ、数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

〔国語〕

これまで取り組んできた読書に親しむ態度を養う活動の一つである、ビブリオバトルやポップ創作などを継続しつつ、成果を実感したICTを活用した表現活動や、生徒間の意見交流をさらに活発化させることで、「話す・聞く」「読む」「書く」領域の一定の水準を保つ。また、学習者用端末等を利用したドリルの活用など、学習習慣と漢字や語句、文法といった基礎学力の定着を図り、知識・技能の能力向上をめざす。

〔社会〕

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、歴史的分野の「古代」、「江戸時代」の正答率が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

また、歴史的分野の「できごとの年代順の並べ替え」に関しても、正答率は大阪府と比べて低くはないが、受験問題を解くためには、必須の力になるので、小テストなどを実施することで、生徒の苦手意識をなくしていけるように努める。

〔数学〕

チャレンジテストの結果から、習熟度別少人数授業により生徒の多くは授業内容を理解し、基礎的・基本的な内容は身につけていると考えられる。しかし、「数と式」の領域において昨年度より10.5ポイント下回り、全体としては府平均を上回っているとはいえ、問題から着目した、数量を読み取り式を作る、などの力を身につけていく必要がある。

また、記述式の問題において、府平均を7.3ポイント上回ったものの、本校の得点率は27.6%と低い結果であった。基本的な数学の考え方を、文字などを使って説明する力を身につけさせることに努めたい。また、入試に向けたさまざまな演習の中で、思考力・判断力・表現力の育成にも努めたい。

〔理科〕

本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着がはかれていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、1年生から小単位ごとに演習問題に取り組んだり、3年生で演習の時間を設定するなどの成果と考えられる。

問題形式別の平均点では、すべての項目で大阪府の平均を上回っているが、記述式の問題で正答率がやや低かった。記述式の問題で「無解答」の生徒の割合が大阪府の平均より10ポイント以上低いことから、答えがわかっていても、正しい表現ができていないと考えられる。今後も、ICTを積極的に利用するなど、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、対話・発表したりする機会を増やしていく必要がある。

得点の人数分布において下のピークとなった25～39点の枠に分布する生徒は、理科に対しての苦手意識を持っていることが予想され、興味関心をもって学習に取り組めるような授業の工夫をすると共に、より基礎基本が定着するよう、教材を工夫し、振り返りや確認テスト等で生徒が小単位ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく必要があると考える。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

(英語)

大阪府平均を本校は14.7ポイント上回るという結果であったが、さらに実力を伸ばすために、授業内で基礎力をつけるために繰り返して学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストなど授業中に実施できるものだけでなく、3学期に控えている入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やしていく。

特に自由度の高い記述問題では英文の完成度の個人差が大きくなる傾向があるため、英文作成が大きく負担になることのないよう、まずは短い文での解答ができるように授業内で挑戦させ、少しずつ書くことへと移行することで苦手意識を減らしていくように指導体制を整える。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期・実力テストでのリスニングだけにとどまらず、ディクテーションでの書き取りも行い、リエゾンを含んだ英文の音読も実施することで、英語の音声の特徴をとらえた聞き取りを進める。また、C-NETとの授業の中ではアウトプットの活動も取り入れることで、集中して聞き取ろうという意識を高める。

今年度は、LC(リテラチャーサークル)の手法を積極的に取り入れたことで、特に「読む力」に関して顕著な成長がみられた。「書く力」に関しても昨年度同様の高い結果が得られたが、個人差が大きい、スローラーナーの生徒達に対しても継続して粘り強く指導していきたい。今後は自分たちで高校入試も含めた目標をもって学習を進め、ペア活動なども取り入れながら考えを深められる授業につなげられるよう、授業内容を工夫するとともに少人数授業やティームティーチングでの授業を活用し、生徒の学力の向上につなげていきたい。

○中学生チャレンジテスト(2年生)より

(国語)

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は69.6点と、大阪府平均の64.5点を5.1ポイント上回った。

学習指導領域別に得点率についても、6つある領域のうち、6項目が大阪府平均を上回ることができた。それぞれの項目の得点率を比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、4.6ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、8.6ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、7.5ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については6.0ポイント、「書くこと」については3.7ポイント、「読むこと」については5.2ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については37.9点となり、大阪府平均の34.1点を3.8ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では50.1点となり、大阪府平均の46.5点を3.6ポイント上回った。特に、「我が国の言語文化に関する事項」の問題では、現代仮名遣いに直す問題の正答率が9.9ポイント、場面展開や内容理解に関する問題が10.9ポイント、文章全体と部分の関係を捉える問題が9.8ポイント上回った。定期的な小テストでの振り返りや古典に親しめるよう音読活動を行ってきたことが、今回の結果に結びついたと考えられる。

「前後の文脈をみて適切な表現に直す」問題の正答率を比較すると、3.1ポイント下回っており、文のきまりについての知識の定着などに課題があると考えられる。また、漢字の読みの問題が大阪府平均をわずかに下回っており、漢字の知識の定着にも課題がみられる。

(社会)

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均44.3点よりも9.7点高い、54.0点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均42.8点よりも11.3%ポイント高い、54.1点であり、歴史的分野が大阪府の平均46.0%よりも8ポイント高い、54.0%であった。

今後の課題としては、地理的分野の「資料から読み取れる情報をもとに考察し、説明することができる」の雨温図を選び、判断した理由を書くことができた生徒の割合が低かったため、日本および世界の雨温図を読み取り説明できるよう授業内で改善する。

歴史的分野においては、「旗本、老中、大老について理解している」の正答率が24.6%で大阪府の正答率32.8%より、8.2ポイント下回っていたので、江戸時代の幕府の仕組みや、身分制度について振り返れるようにする。

問題形式別の得点率でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、短答式の得点率が大阪府の平均50.0%よりも19.0ポイント高い、69.0%であり、日頃からの授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりしているので基礎的な学習の定着ができている。

(数学)

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は67.1点で12.1点上回っていた。

各領域別の得点率を見ると、「数と式」の領域は69.3%(府平均+12.4ポイント)、「図形」の領域は70.0%(府平均+12.3ポイント)、「関数」の領域は62.1%(府平均+11.7ポイント)であり、全領域で上回っているものの、府平均比だと図形の領域の得点率が低かった。

(理科)

本年度のチャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は50.9点で、大阪府平均点の46.7点を3.2ポイント上回った。カテゴリー間の比較においても、すべての項目で大阪府を上回った。

正答率の度数分布においては、分布の傾向は大阪府が35～40点が一番多いが本校は30～34点が多かった。50～59点に分布している生徒が周辺の正答人数より少ない凹型の分布になり、少しの2極化が見られた。上位層は大阪府を少し上回る傾向にあった。

課題については、問題形式が記述式の問題すべての無解答率が20%を超えていることである。授業の中でも記述になれるために、多くの問題を取り入れてきたが、無解答率は停滞している。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

(英語)

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が51.8点であったのに対し、本校は62.7点であり、大阪府平均より10.9ポイント上回る結果となった。
学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、3.3ポイント上回ることとなった。C-NETとの授業においてのやり取りやテストのリスニング問題の実施だけでなく、教科書を活用してのリスニング問題にも取り組むことで、高い「聞く力」が定着していると考えられる。
「読むこと」の領域においては、2.9ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を丁寧に読み込むことを授業で行い、WPM(1分間に何語ほど読めるかの指標)を計測する活動を行うことで、まとまりのある文章を読み取る力の育成につながった。
「書くこと」の領域においては、4.7ポイント上回った。各プログラムごとに自由度の高い英作文を書いたり、定期テストでも英作文に取り組んでいることや、C-NETを含む複数教員で添削することで基本的な「書く力」が徐々に定着してきていると考えられる。
また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において5.6ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において5.3ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

【今後に向けて】

(国語)

すべての観点で大阪府平均を上回っているが、「書くこと」の自分の考えを書く設問の無回答率などを見ると、大阪府の割合よりは低いものの、一定数答えることができていない生徒がいる。自分の意見を書くことが困難である生徒に対し、ディームティーチング授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな支援をしたりすることで、書く力の定着を図りたい。

基本的な学力である漢字や語彙の定着を図るため、引き続き小テストを行っていく。また文章の要約をしたり自分の意見を書いたりする課題に取り組む。さらに、資料やデータを読みとる活動も積極的に取り入れ、様々な情報を整理する力も定着させたい。

(社会)

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、歴史的分野の「旗本、老中、大老について理解している」の正答率が大阪府の平均よりも下回っていたため、江戸時代の幕府の仕組みについて、今後、各時代の仕組みと比較しながら知識の定着を図れるように努める。

(数学)

「記述式」では37.8%で府平均と比べても11.7%しか上回っていない。そもそも、37.8%という数値が低い状態である。記述問題を積極的に解いていく、挑戦していくという姿勢が養われないままになっていることが問題である。

以上の結果から、思考を必要とする問題には取り組まない傾向や、難しい問題に積極的に取り組んでいない可能性が相変わらず残っていると思われる。1年次より生徒たちが自ら問題を解く時間を長めに確保しながら、解答を導くために必要な質問をし、諦めずにできる箇所まで問題に取り組む姿勢を身につけさせられるように声掛けをしているが、引き続きアプローチを創意工夫しつつ、授業を展開していきたい。

(理科)

今後も引き続き問題演習で記述形式の問題を取り込み、まずは「書く」ことを意識するように指導を続ける。また、実験において自分で仮説を立てることが苦手な傾向があるため、これからの実験に取り入れたいと考えている。

(英語)

大阪府平均を本校は10.9ポイント上回るという結果となったが、今後も実力を伸ばすために、授業内で基礎力をつけたり、繰り返して学習ができるよう、授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、短めの語句を書く機会を授業で増やすだけでなく、条件英作文や入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、今後も英語を書く機会を増やしていきたい。

自由度の高い記述問題では個人差が大きくなる傾向があるため、英文作成が負担になることのないよう、まずは短い文で正確な解答ができるように授業内での質問を増やし、その後、「書くこと」に移行できるように指導方法を再構築する。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期テストでのリスニングのみならず、ディクテーションを行い、英語の音声の特徴をとらえた聞き取りを行う。また、C-NETとの授業の中では、英語でやりとりをすることで、相手の言うことを聞き取ろうという意識を高めていく。

今年度、生徒が意欲的に授業に取り組む姿勢は見られたが、一方で苦手意識を持っている生徒も少なからずいる。その生徒達にも興味を持って英語の授業に取り組めるような授業を展開していく。今後は自分たちで目標をもって学習を進め、グループワークやペアワークなども取り入れながら考えを深められる授業につなげられるよう、授業内容を工夫していきたい。そして、少人数授業やディームティーチングでの授業を通して、生徒の学力の向上につなげていきたい。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生)より

(国語)

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は72.8点と、大阪府平均の63.1点を9.7ポイント上回った。
学習指導領域別の得点率についても、6つある領域のうち、6項目が大阪府平均を上回ることができた。それぞれの項目の得点の平均を比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、1.2ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、2.1ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、1.8ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については2.0ポイント、「書くこと」については3.0ポイント、「読むこと」については3.0ポイント大阪府平均を上回っている。
評価の観点別では、「知識・技能」については42.0点となり、大阪府平均の36.9点を5.1ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では54.5点となり、大阪府平均の46.4点を8.1ポイント上回った。
さらに、「インタビューの内容を踏まえて話す内容を書く」という設問では、正答率が55.5% (大阪府平均37.6%) で無解答率が14.8%となっている。大阪府平均の無解答率が%ポイントであるため、時間内に粘り強く書くという姿勢も見られている。ワークシートの工夫を行い、ペア学習、グループ学習を取り入れ、「総合読解力育成カリキュラム」を有効に活用できた成果だと考えられる。
「文章に即して漢字を正しく読む」という漢字の問題では、3問中、2問が大阪府平均をわずかに下回っており、外国籍の生徒を含めて基本的な知識が定着していない生徒がいるため、引き続き学習習慣の定着をさせることが課題である。

(社会)

今年度の中学生チャレンジテストにおいて、校内の平均正答率は、67.1%であった。大阪市の平均正答率は58.3%であったため、8.8ポイント上回っている。また正答率によるカテゴリー間の比較を見ると、極端に得点が低い分野が少なく、地理・歴史ともに偏りがなく正答していることがわかる。
今年度の成果としては、カテゴリー別正答率の項目について、「基礎・活用」「領域」「観点」「解答形式」の4項目の平均正答率についても、全ての項目について大阪市の平均点よりも上回る結果であった。特に、市の平均よりも大きく上回った項目は、解答形式の記述の平均正答率が大阪市平均51.4%に対して16.2ポイント上回る結果となった。また、「思考・判断・表現」の項目について、大阪市の平均正答率が56.3%に対して、本校の平均正答率は66.3%であり10ポイント上回っている。地理分野・歴史分野とも単に暗記するのではなく、考える力、自分の言葉でまとめる表現力が定着している。これは、1学期から定期テストで記述問題を多く取り入れ、解答の書き方・説明の仕方、自分の考えのまとめ方等を繰り返し指導した成果であると考えられる。また、定期テストに向けて、毎時間単元の振り返りとして、自分の考えをまとめ、発表する取り組みも行ってきた。今後も更なる定着を図るために、引き続き指導を続ける。

(数学)

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は66.7点で10.0点上回っていた。
領域別に見ると、「数と式」では、得点率が64.8% (府平均+8.0ポイント) となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考えられる。また、「関数」では得点率が67.5% (府平均+10.8ポイント)、「図形」では得点率が70.2% (府平均+13.8ポイント) で、すべての領域において府平均を上回った。
各問題ごとに得点率を見ても、すべての問題において府平均を上回っているが、正答率の低い問題は、府平均と同様に本校でも得点率が低く、特に記述式の問題では改善の必要があると考えられる。

(理科)

本年度のチャレンジplusテストにおいて、理科の学校平均正答率は70.1%で、大阪市平均正答率の63%を7.1ポイント上回った。カテゴリー間の比較においても、すべての項目で大阪市を上回った。
正答率の度数分布においては、分布の傾向は80%～100%未満の正答率が大阪市より11ポイント上回っており、100%の正答率は大阪市の1.4倍近くになっている。

課題としては、実習や実験を伴う出題についての正答率が大阪市の正答率より低かったという点があげられる。理科室には空調機がなく、猛暑日や冬の時期は実験ができるような環境ではない。そのため、実習や実験を行う機会が少なくなる。

(英語)

本年度のチャレンジテストにおいて、大阪府の平均が65.2点であったのに対して、本校では79.7点であり、大阪府平均より14.5ポイント大きく上回る結果となった。

「読むこと」の領域において、大阪府平均を6.6ポイント上回った。本文の内容理解を促す精読を行うことや、文法の解説、また副教材を用いた演習問題に取り組むことで、文章を読み取る力がついてきているという結果に結びついた。

「聞くこと」の領域において、大阪府平均を3.5ポイント上回った。C-NETとの授業や定期テストにおけるリスニング問題だけでなく、普段の授業の中でリスニング問題に取り組ませることで聞き取りの力が定着し、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「書くこと」の領域において、大阪府平均を4.3ポイント上回った。単元ごとに単語や連語、また空所補充問題を含めた単語テストを実施し、会話のやり取りなども文章にすることで書くための基本的な力はあると考えられる。また、発表原稿を作る際に自身でそのテーマにあった内容の英作文を行い、C-NETと協力し点検を行ったため幅広い表現力も身についたと考えられる。

また、評価の観点においては「知識・技能」の観点で6.3ポイント、「思考・判断・表現」の観点においては8.3ポイント大阪府平均を上回っており、どちらの能力もまんべんなく身につけていると考えられる。

しかし、無回答率は1.7%であった。大阪府の無回答率が4.9%であることを考えると少ない傾向ではあるが、間違えることを恐れて、自分が確実に理解している内容でなければ問題にチャレンジしない生徒もいるということが見て取れる。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【今後に向けて】

〈国語〉

すべての観点で大阪府平均を上回っているが、最後の問題の古文で、「会話の一部の中の空欄に入る内容として適しているものを選択する」問題の無解答率が大阪府平均より0.5ポイント高くなっている。限られた時間内に文章を読み取ることができていない生徒もいることがわかるため、様々な資料や文章を短時間で読み取る力を定着させたい。そのために、「総合読解力育成カリキュラム」と連携したり、文章の要旨や自分の意見を書く時間を設定したりするなど授業の工夫を行う。

〈社会〉

今年度の成果としては、各領域・単元・観点とも、大阪市の平均正答率を上回ることができたことである。しかし、正答率度数分布を見ると、正答率40%未満が少数いることから、普段の定期テストでも下位層が、本チャレンジテストでも点数に結びつかない結果となった。今後の指導では、基礎の取りこぼしをなくしていくためにも、下位層の基礎基本の定着を図れるよう努める。また、資料の読み取り問題も更に対応できるよう、日々の授業で「グラフ・地図・写真」等に慣れさせ、読み取る力を伸ばせるよう努める。

〈数学〉

チャレンジテストの結果から、生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容は身につけている。また無解答率も府平均を4.1ポイント下回っていることから、設問に対して積極的に考えることができていた。

ただ記述の問題については、大阪府平均を7.4ポイント上回っており、昨年度よりもポイントの上昇がみられた。またアンケートにおいて、「難しいことがあっても、あきらめない」という設問に対して、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が82.4%であり、府平均を3.5ポイント上回っていた。

チャレンジテストの結果とアンケートから判断できる課題について、思考力・判断力・表現力の育成に努めていくとともに、最後まで諦めずに粘り強く取り組む力を養っていきたい。

〈理科〉

理科室が使用できない期間の実習や実験は教員による演習実験や動画を活用して知識を補っていきたい。そして、問題演習を通して知識の定着を目指したい。

〈英語〉

大阪府平均を14.5ポイント大きく上回るという結果となったが、さらに実力をつけていくために今後も集中して授業に臨み、様々な領域で基礎力を付けられるように、今後の授業展開を考える必要がある。

特に「書くこと」の領域では、もう少し強化を図る必要があると思われる。まずは英語嫌いを生まないように活動やアクティビティを通して楽しく取り組ませ、抵抗感を最小限に抑えられるように授業を展開した。そのため、英語を書くということに自信をもって取り組めない生徒が一定数いることも確かである。したがって、今後の授業ではAIなども用いながらさまざまな視点から生徒の書く力を伸ばしていきたい。また「聞くこと」の領域においては、さらに英語の音声聞く機会を増やしていきたい。C-NETと連携した授業を通して、日常的に英語を聞く環境を作り、聞く力をつけ、英語を使って会話をすることで「話す」という意識も高めていき、より実践的な英語力を身に付けられるようにする。

また、自信をもって授業に取り組めるよう環境を整え、工夫した授業を行っていくことで無回答率をより低くすることが可能だと考えられる。

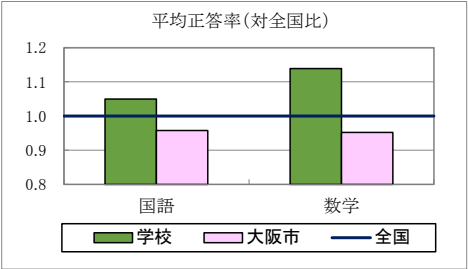
これまでの授業においては、意欲的に取り組む生徒も多数見受けられたが、苦手意識を持っている生徒も存在している。その生徒達も、興味を持って取り組めるように授業を工夫していく。

令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

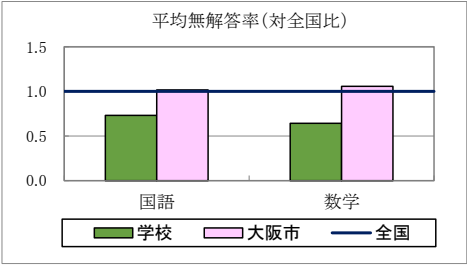
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	55
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

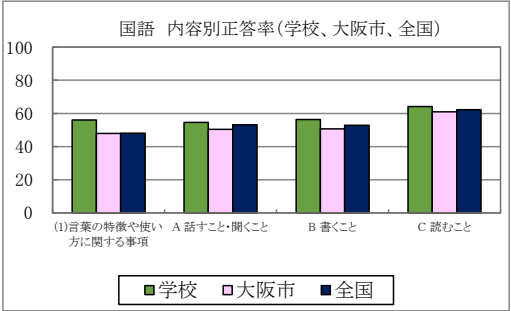


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.9	6.8
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



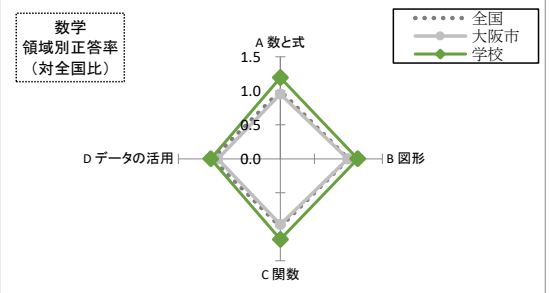
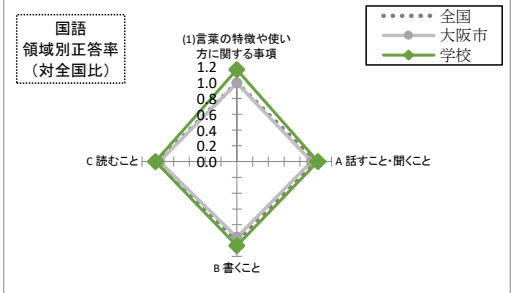
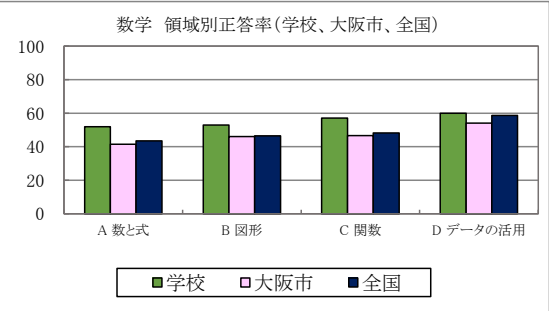
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	56.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	54.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	64.2	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	51.9	41.4	43.5
B 図形	4	52.9	46.1	46.5
C 関数	3	57.1	46.6	48.2
D データの活用	3	60.0	54.0	58.6

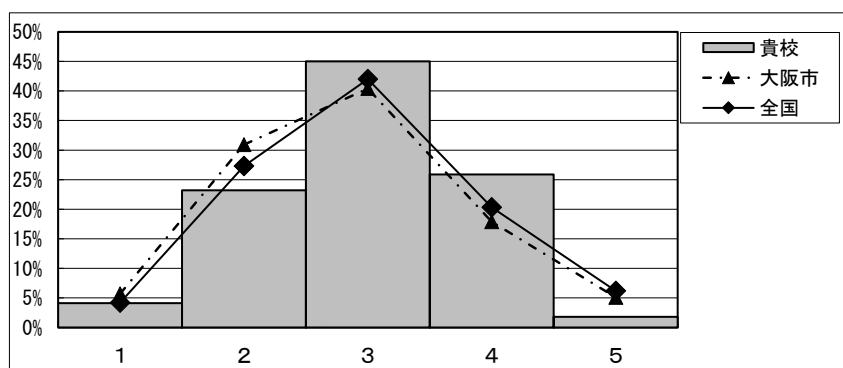
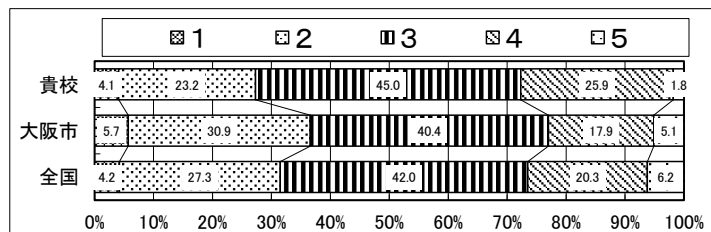


令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	497
大阪市	489
全国	503

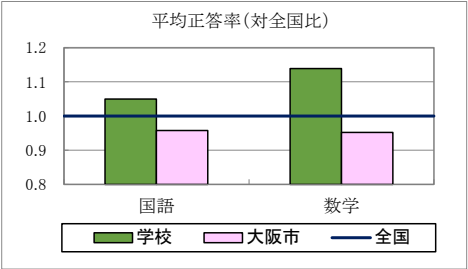


令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

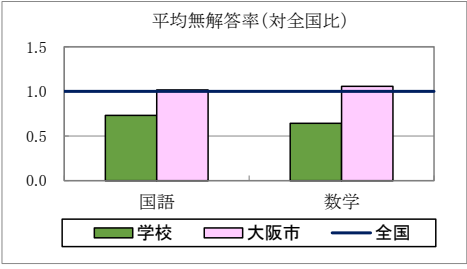
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	55
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

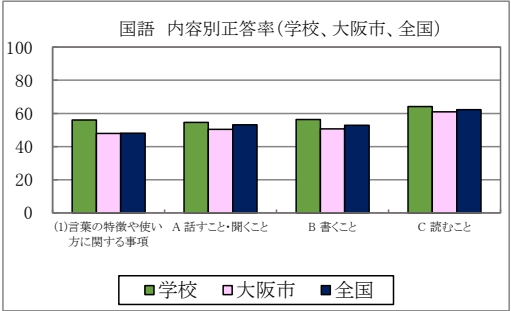


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.9	6.8
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



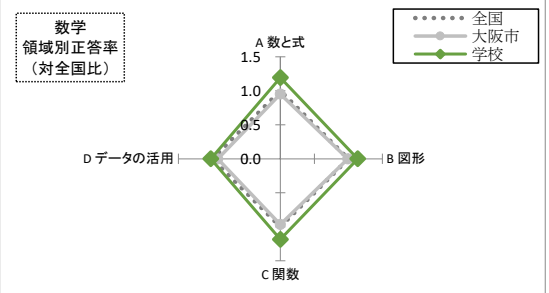
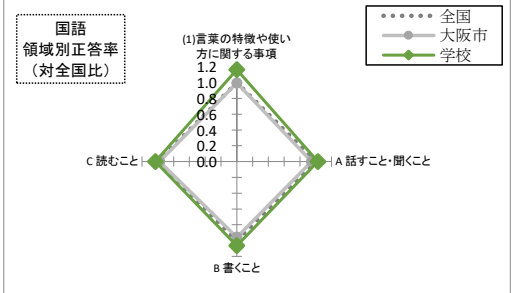
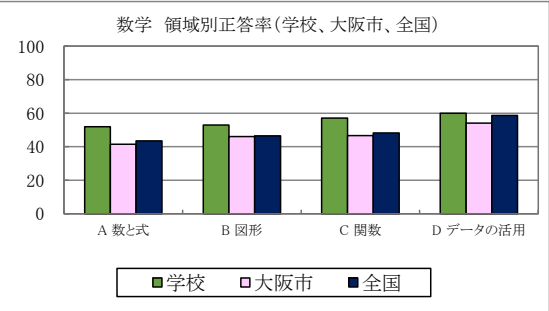
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	56.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	54.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	64.2	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	51.9	41.4	43.5
B 図形	4	52.9	46.1	46.5
C 関数	3	57.1	46.6	48.2
D データの活用	3	60.0	54.0	58.6

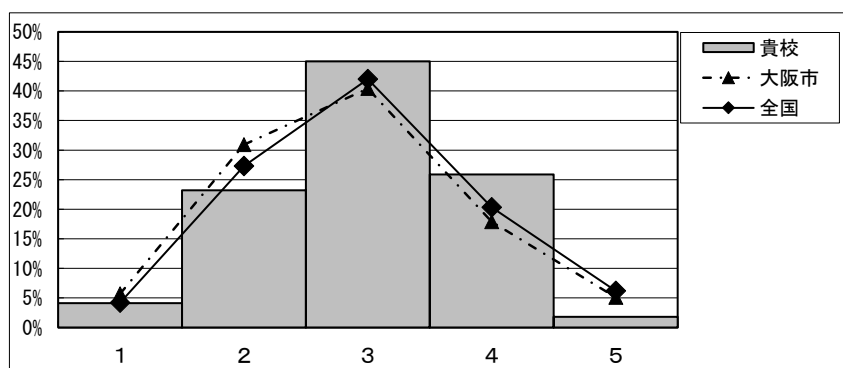
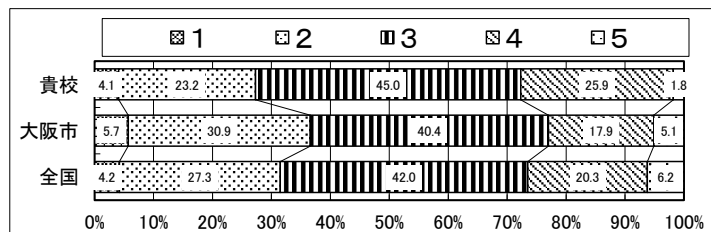


令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	497
大阪市	489
全国	503



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

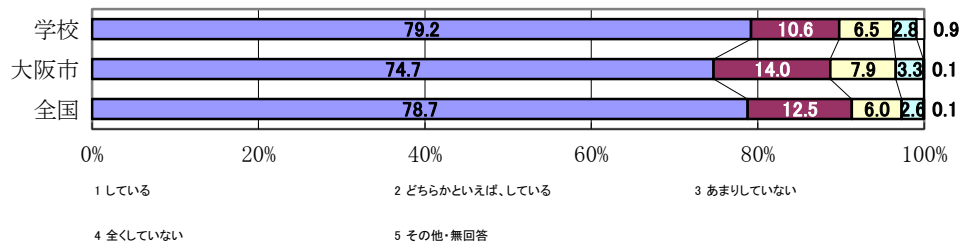
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

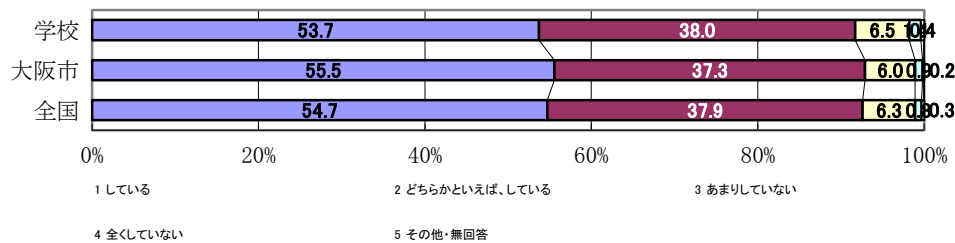
1

朝食を毎日食べていますか



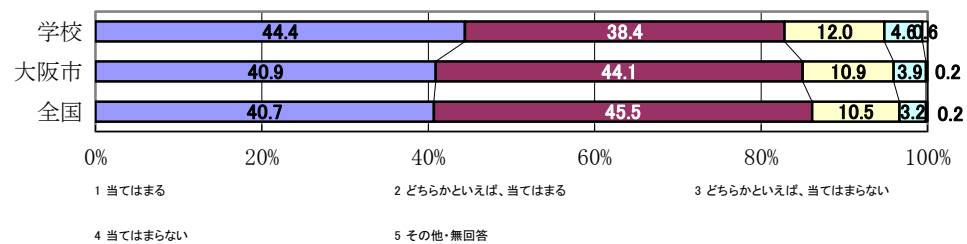
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



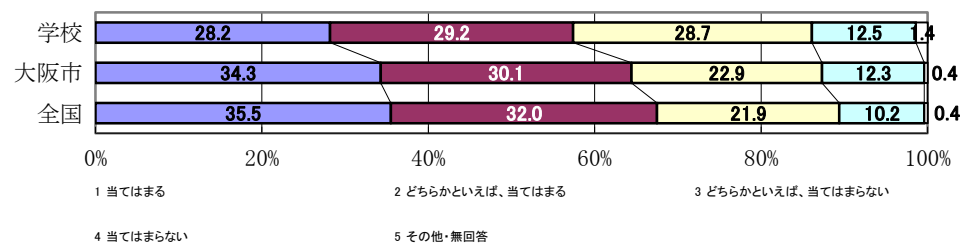
5

自分には、よいところがあると思いますか



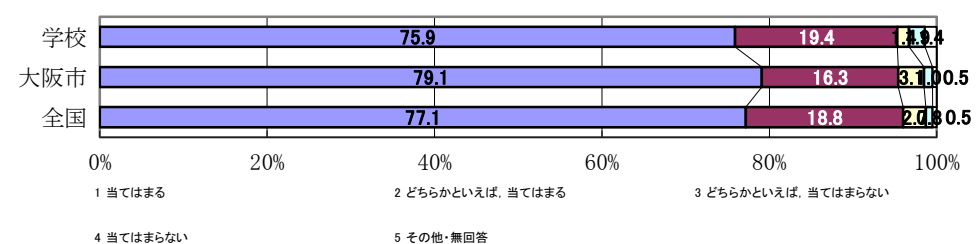
7

将来の夢や目標を持っていますか



9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

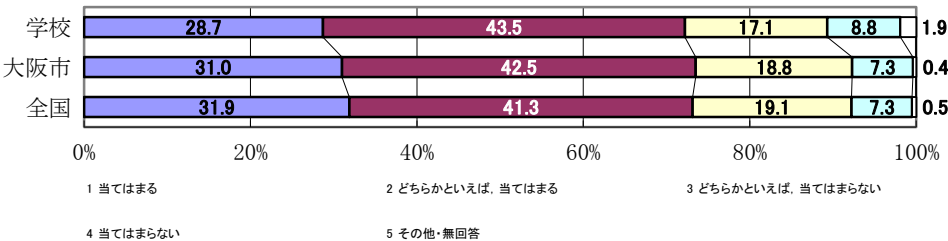
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

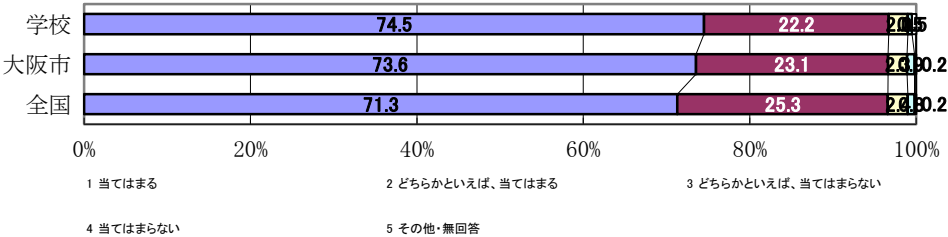
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



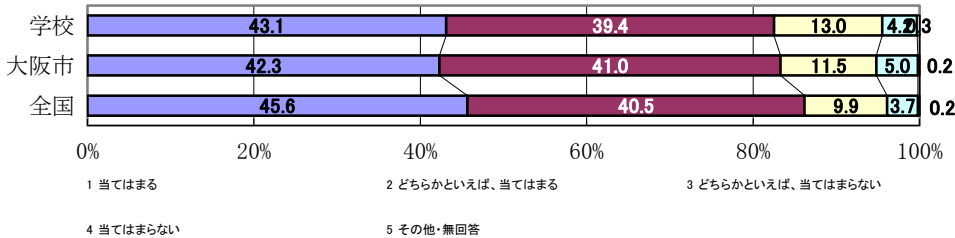
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



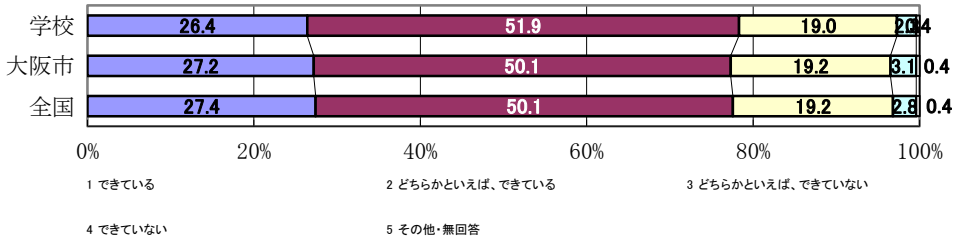
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



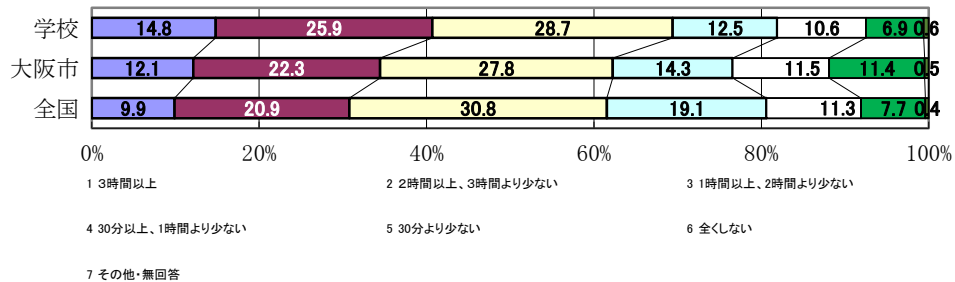
16

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

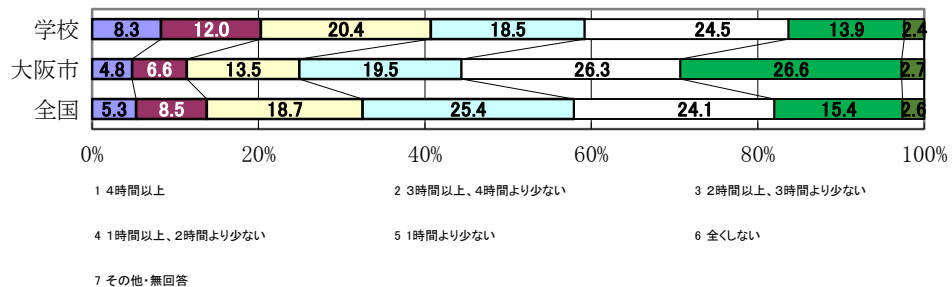
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

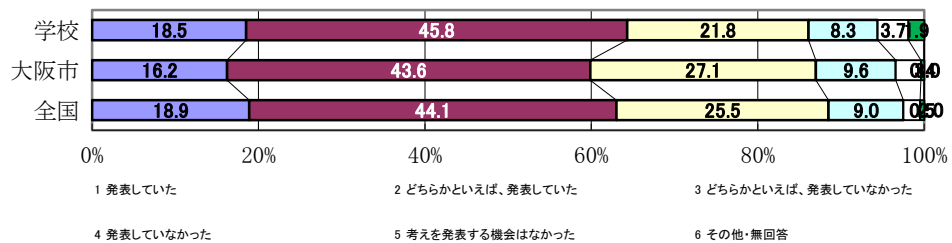
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



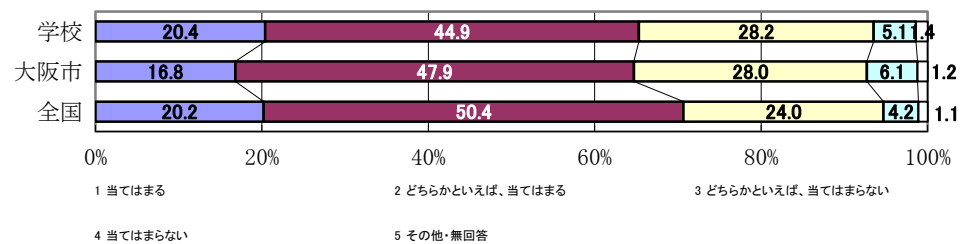
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



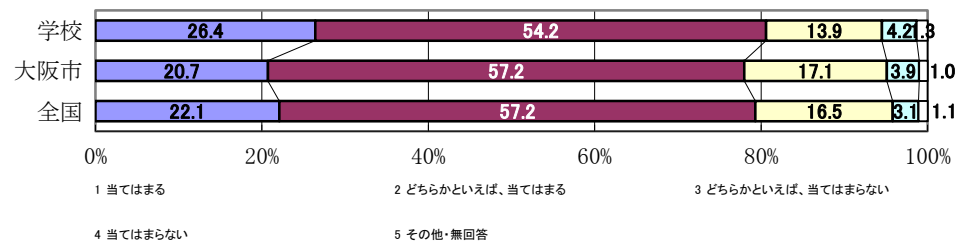
33

1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



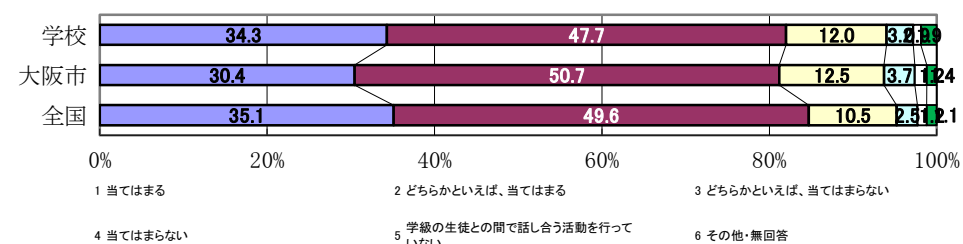
34

1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

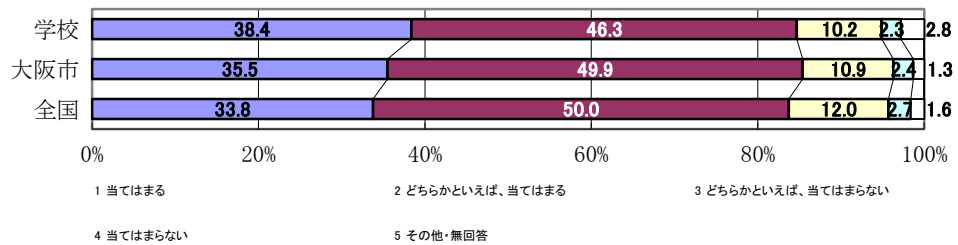
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

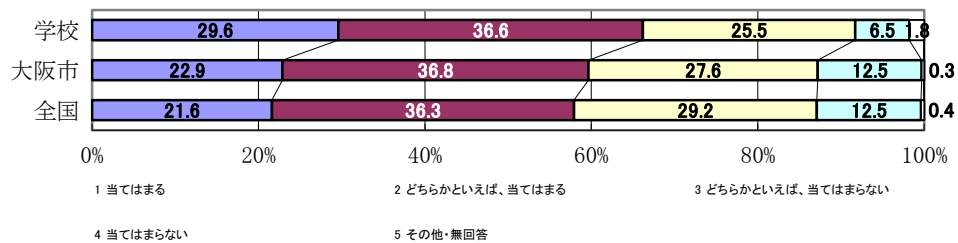
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



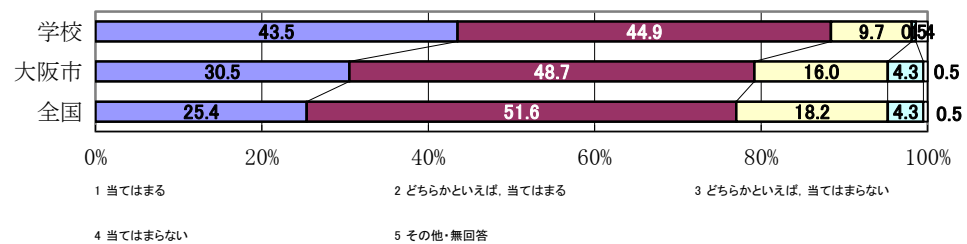
45

国語の勉強は好きですか



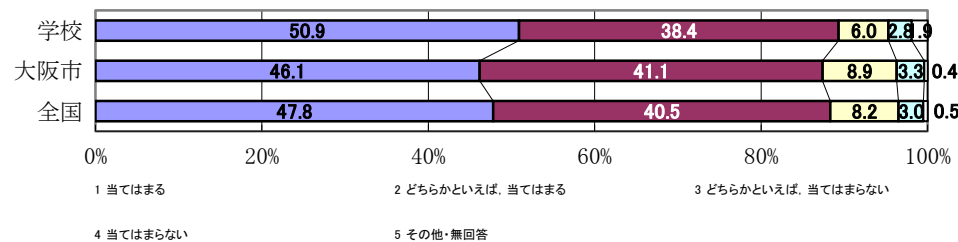
46

国語の授業の内容はよく分かりますか



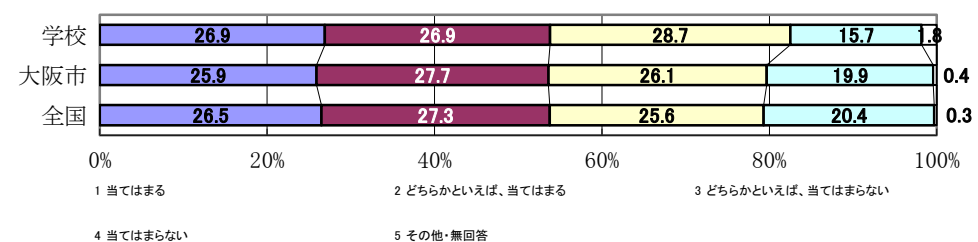
47

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



53

数学の勉強は好きですか



令和7年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

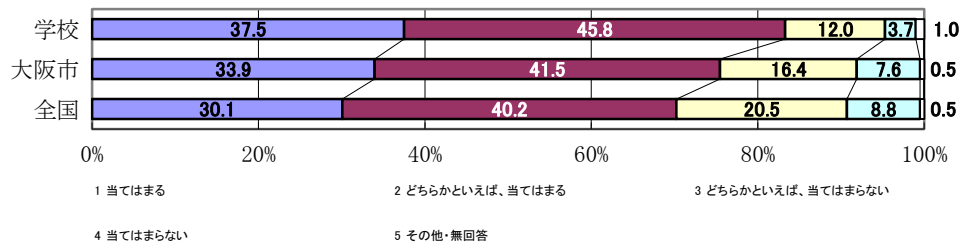
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

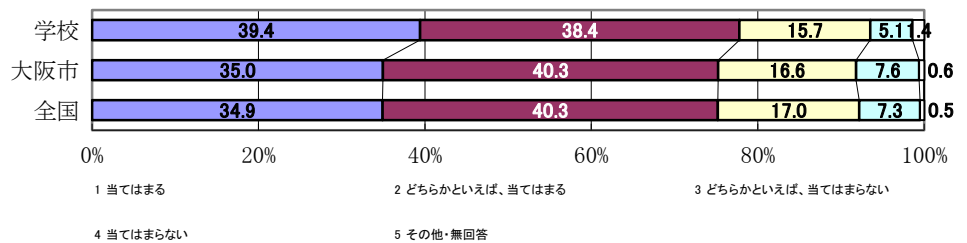
54

数学の授業の内容はよく分かりますか



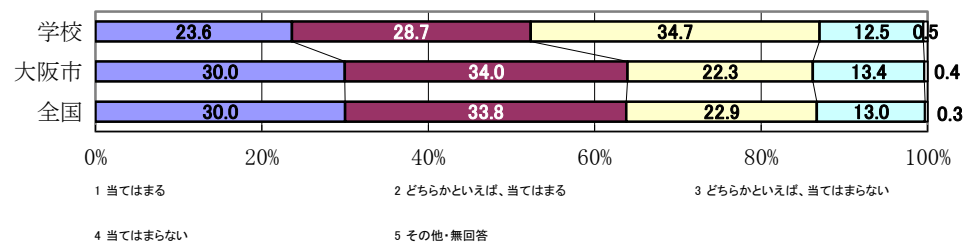
55

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



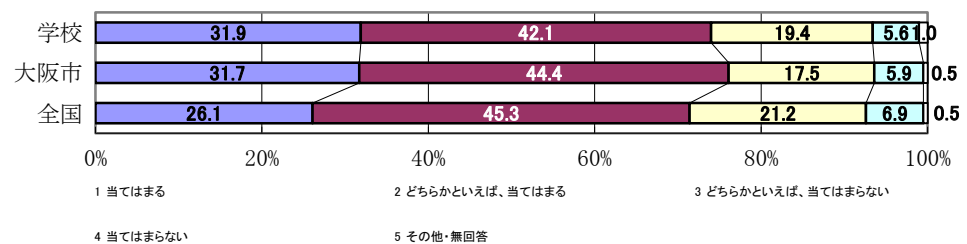
61

理科の勉強は好きですか



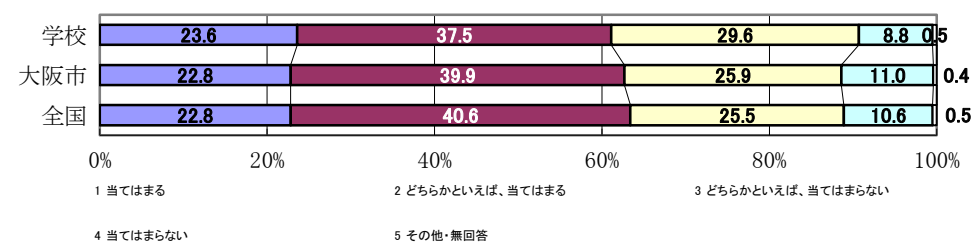
62

理科の授業の内容はよく分かりますか



63

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



令和7年度 東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



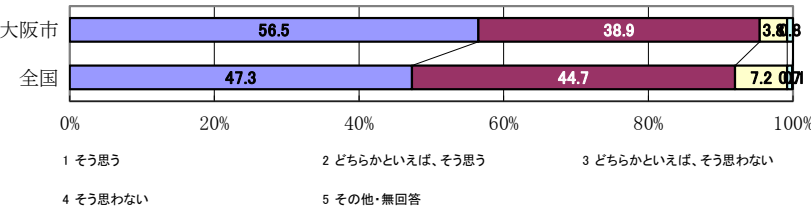
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

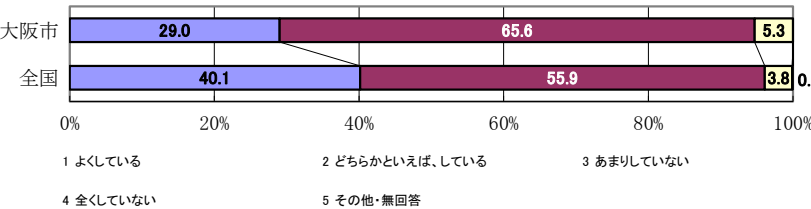
学校 「そう思う」を選択



15

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

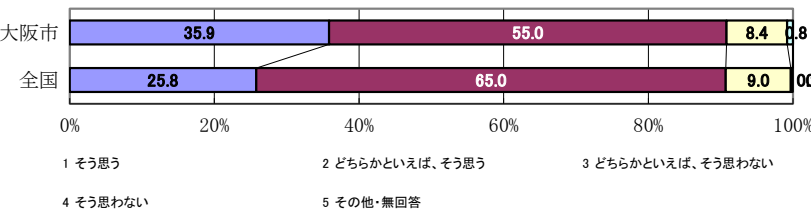
学校 「よくしている」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか

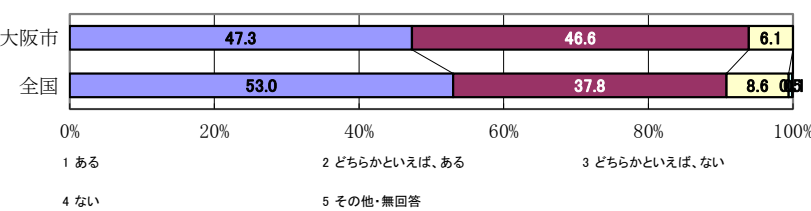
学校 「そう思う」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択



58

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択

